

人間町2丁目崖線樹林地



◆野川に隣接する崖線樹林地

野川の下流域、国分寺崖線の一角をなす、通称「NTT崖線」の斜面地が調布市に寄付されました。ここは東京都緑地保全地区・世田谷区特別保護区に指定されている「神明の森みつ池」へと続く緑の崖線です。

今後1～2年をかけて生物多様性の観点から専門家による調査が行われ、その後調布市から崖線斜面緑地の活用と保全方法が示される予定となりました。

◆かつて、今、そしてこれから

かつては、防空壕や雑木林またNTT研修所グラウンド（以前は電通学園と呼ばれていた）への抜道として、近隣の子供たちの冒険の場所として親しまれていました。40年以上前に崖線斜面地がフェンスで囲まれてしまい自由に入出入り出来なくなり、結果として比較的自然の状態のままの樹林地帯となっています。

一方ここ数年、土地開発が進み当該地も例外では無く、緑が無くなる状況が出てきたことから、（マシオン建設計画）近隣の地元住民による緑を守る活動が始まりました。

崖線の緑から野川の水辺までの自然を親しみ、そして守る街づくり活動として「人間町・緑につつまれた街づくりの会」が発足し調布市と一体となって活動を進めてきました。（2016年、民間マシオン完成）

活動が進む中、所有者であるNTT東日本（株）社の理解と賛同が得られ2014年に緑地として保全される地区計画が決定され、その後、昨年2015年に斜面地部分が調布市に寄付されるに至ったものです。

この崖線斜面地の高木は猛禽類の営巣や渡り鳥の中継地点でもあり、樹林地帯は野鳥や動植物昆虫類のサンクチュアリとしての自然が確保され、また自然とのふれあいの場所としても今後活用・保全が期待される場所です。（WO）

◆7月24日の視察

手始めに現状を知るための視察（緑と公園課）に環境市民会議のメンバーが参加しました。

NTT敷地周りの寄付された斜面地は幅もまちまちで、一見するとさほど広いようには見えませんが、合計すると2.4ヘクタールほどになるそうです。当日は東に隣接する人間公園から植物などを観察しながら一周しました。（NK）

ヤマユリ

ゴンズイの実

シオデの花



アキノタムラソウ



右は大規模マシシンの敷地にNTTの社宅が点在していた2008年3月の状況。崖線斜面まで下刈りが行き届いています。

現況（最右写真）に比べて気持ちのよい雑木林ですが、生物多様性という点からはどうでしょうか。

この樹林の保全にあたっては、大規模マシシンの近接するエリアとそうでないエリアに分けて手入れ方を変えるなどの工夫が必要のように感じました。

それにつけても、マシシンの住民や、崖上に今後できる学校や老人施設関係者に樹林保全の活動に参加してもらうことが大切だと思います。



花の履歴書 40

戸部英貞 (絵・文)

シュウカイドウ (秋海棠) シュウカイドウ科



Begonia evansiana

中国では春の花木の中でカイドウ (バラ科) が一番とされ、次のような伝説がある。「唐の玄宗皇帝が酒宴を催し、求愛する楊貴妃に同席を求めたところ、楊貴妃は自室で酒を飲んで酔い、歩くことも出来ない状態で、家人や使者に抱きかえられ、皇帝の前に連れてこられたが、頬はほんのりと紅をさしたように色付き、瞳は夢を見ている如くうつとりとして得も言われぬ美しさだった。

しばらく見とれていた皇帝は「お前はまだ酔っているのかと」楊貴妃にたずねると、楊貴妃は「海棠の眠り未だ醒めず」と答えた。「これがカイドウの別名「睡花」の語源となり、カイドウは美人を形容する言葉として用いられるようになったと伝えられている。

日陰の池の縁で水面を覗き込むように咲く姿は、つましやかな美しさの中にも憂いを感じられるのは、この花の咲く姿や場所なのか、それとも訪れる季節のためなのだろうか。別名に「断腸花」の名がある。

シュウカイドウ (Begonia) 属はオーストラリアを除く世界の熱帯から亜熱帯に広く分布し、その数2000種に達すると言われている中で、シュウカイドウは中国南部から東南アジアにかけて自生する耐寒性のある一種。

我が国には本来の自生はないが、江戸時代の嘉永18年に中国より渡来し各地で栽培された結果、現在では各地の日陰や湿気の多い場所に逸脱帰化したものが見られ、完全に市民権を得た帰化植物である。

沖縄県の八重山地方には近縁のコウトウシュウカイドウ (紅頭秋海棠)、マルヤマシュウカイドウ (丸山秋海棠) が自生し、ともに絶滅危惧種になっている。

夏のお客さま



この夏我が家にやってきた可愛いお客様たち。
まずはハダコトンボ。8月の初め頃から何回も庭に現れる。エメラルド色の (これはオスの色らしい) 細い尾を少し上に向けて、たんだんだ黒い羽を開いたかと思うとまたすつと元通りにたたむようすはバレリーナの趣き。写真を撮りたくて静かに近づけるのだが、いい所までくるとヒラヒラ別の葉へ移動。優雅なしぐさなのに私には決して写真で撮らせてくれない。緩やかな流れに生息する幼虫は6〜7月頃羽化し (もしや野川で?)、

うす暗い林などで生活するといふ。我が家のややうつそうとした庭は暮らした良かったのか。そして近くで生まれたのだらうか、ヒヨドリの子3羽。これは1週間くらいの間よくやってきた。2羽の子どものうち1羽は庭のアオハダの枝にとまって赤い実をついば



アオハダの実

は、サクラの咲くころになるが、サクラの咲くころになるとやっくてなくなる。夏は何を食べているのか、と気になって眺めていても飛ばない、たようだ。(NK)

調布 水辺の楽校

8月11日 (木・祝) 曇り

多摩川原橋の下流にて川流が確認できました。また、最初はおっかなびっくりだった川流れも、「もうクリンアップ&芋煮の予定です。」と足が届か

た。参加者は、募集の手違いなこともあり中学生を含めて子供4名と保護者の方2名、あとはスタッフが数名といったことになりました。

生き物観察として、投網での捕獲、ガサガサでの捕獲を行い、アユ・オイカワ・ヌマチチブ・シマドジョウ・ウグイ・フナ・ヌカエビ・イトトンボ (ヤゴ)・コオニヤンマ (ヤゴ) など



クリンアップ (ゴミ拾い) の予定です。また、最初はおっかなびっくりだった川流れも、「もうクリンアップ&芋煮の予定です。」と足が届か

池ノ内伸行

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

7月17日(日) 曇り時々晴れ

参加者9名

方形枠調査と植生調査を行った。これまでの調査方法を見直し4か所の方形枠調査と10m四方の植生調査を全員で行った。区域内の植物名をあげ、形態、株数、開花・結実を記載。慣れないので植物名があげられず時間がかかり1か所しかできなかった。プチ違いは、ミヨウガとヤブミヨウガ、ヤブガラシとアマチャヅル。花はミズヒキ、ヒナタイノコツチ、ヤブラン、ツユクサなど。



アマチャヅルとヤブガラシ

8月21日(日) 晴れ 参加者8名

暑かったが二手に分かれ、雪で曲折したツバキの胸切りとサネカズラ伐採を行った。サネカズラは地下に根がのび繁茂も早い伐採も容易である。また、ヤマユリの葉も確認できたのでサネカズラの藪化を防ぎたい。花はヤブランが目をはき、クロアゲハ・アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、アブラゼミ、ノコギリクワガタ・カマキリと昆虫にたくさん出会えた。

(安部)



アオスジアゲハ



ノコギリクワガタ



キンミズヒキ

カニ山の会

7月9日(土) 雨

雨のため作業中止

8月13日(土) 晴れ 参加者6名

お盆の最中ということもあり、参加者は少な目だが、植物はそんな人間の都合とは関係なく、おおいに背丈を伸ばしている。

ドングリの森(キャンプ場北側)地区で主に金網周りの草刈をした。つる性の植物ヤブガラシなどがからんだり、枯れたオオスズメノカタビラ、実がなり始めたヨウシュヤマゴボウ、その他大きな草が多く、どんどんすつきりしていく。

春に移植したケンポナシもかなり大きくなっているのに頭の先までイシミカワやオニドコロなどのツルがかぶり、緑の怪獣のよう。雨のため2か月ぶりの作業になったので、移植した木の中にはいつの間にか葉を食われ放題になっている物もあった。

男性は小島リーダーにナタの使い方を教わりながら植栽地周囲の杭の取り換え作業もした。

昨年度はセブンイレブンの助成金を受けたので9月18日都庁での報告交流会に参加の予定。

(鍛冶)

作業後



作業前



若葉の森3・1会

7月3日(日) 曇りのち晴れ

参加者7名

大変暑い日で小まめに休憩して水分補給、早めに終了。

昆虫採集の親子連れ2組。1組は、かぶとの幼虫を森で捕まえ家で育てて大きくなると森に戻しているとのこと。

最初に安全講習会の報告。特に蜂や蚊、蛇などの毒を吸い出すポイズンリムーバの使用方法が説明された。

作業は、第1緑地でコンポスト柵の補修、中央階段土留め。全域でゴミ拾い。第2緑地で七夕用の笹伐採。なお、六別坂の落葉かきは地元自治会が実施済。

8月はお休み。(NOK)



ノコギリクワガタ(メス)



キノコ目玉おやじ似



階段補修杭打ち



コンポスト柵補修杭



七夕の笹どうぞ

凸凹森の会

6月26日(日) 晴れ 参加者10名

東側の樹林の手入れとミーティング。たまたま現地にふらっと来た若者が一緒に作業や話し合いに参加してくれて、楽しかったと会に仲間入り!

7月17日(日) 晴れ 参加者10名

夏草がはびこり、イベント前の草刈り。クズの茂みの中に切れ込みの深い変な形の葉っぱをしたクズがありました。6年前の秋に小粒な球根を植えたキツネノカミソリが今年は見事に沢山咲きました。



7月31日(日) 曇り時々雨

参加者70名

恒例の流しそうめん地域親子が大勢参加しました。使う竹の選び方を教わり、竹で猪口や箸を作る時にはノコギリや小刀を扱う。普段出来ない体験です。トイを流れてくるそうめんを自作の箸で

夢中で食べた子供たち大人たちでした。

(石原)



自由研究は楽し

衛藤譲二さんの場合

7月11日、今年のアースデーで購入した柚子の苗木にアゲハらしき幼虫が取りついていました。早速図書館で調べた所アゲハの幼虫と判り飼育方法もありましたので、小学生に戻った気分です。化すまで飼育・観察する事にしました。

クーラーボックスに新鮮な柚子の小枝を与え毎日ドキドキしながら変身を楽しみました。

飼育して分かったのは、実によく食べる事です。その為新鮮な葉を絶えず供給し食べればでる糞の始末をしなければなりません。糞の色はやはり薄緑で、匂いはカビの生えたミカンかな。そしてその大きさは終齢幼虫では全長が5センチにもなり活発に動き回り飼育ボックスが「狭くてたまらんなあ」と言っているようでした。又、終齢幼虫の葉を食べる音はかなりのもので、蚕が桑の葉を食べる音もこんな感じだろうかと思われました。

幼虫を見つけてから20日後の7月31日に無事羽化し羽長の計測をしてから大空に放しました。

この事から入間町辺りの緑地で蝶の幼虫を探してみるとサルトリイバラにルリタテハ、ヤマハギにおそらくキタキチョウ、緑地周辺のユズにアゲハが観察出来ました。又この夏、スズメバチの仲間がアゲハの終齢幼虫らしきものを肉団子に加工するのを2回も見ましたので、自然界で卵から羽化出来る確率は低いな！と感じました。

アースデーでの苗木は、アゲハに葉を食尽され枯れてしまいました。来年は卵の産み付けからアゲハの飼育に挑戦してみたいので秋になったら柚子の種蒔きから始めたいと思っています。



第3回 環境モニター 9月3日(土) 晴れ 参加者11名

前回に引き続き方形柵調査をした。花火大会の後だからか、きれいに草刈がされた低水域には前回とほぼ同じ種の帰化植物が多かった。今回は調査の方法にも少し慣れ、3つの柵について調査票を埋めることができた。

植物以上に昆虫に詳しい石川講師に目につく昆虫についても説明していただき、セイタカアワダチソウにはアワダチソウグンバイ、という具合にその植物特有の昆虫がついていることなども観察した。

時間があつたので、以前ワンドとなっていた所まで降りた。台風の後だったのでびつくりするくらいの高さまでゴミがひっかかっており、増水の恐ろしさを感じられた。また足元のぐちゃぐちゃしたところにはくつきりとした足跡が残し、一方はタヌキ、もう一方はサギのことだった。



台風でなぎ倒された草の間からは早くもヒガンバナが花を咲かせ始めていた。



方形柵2番はオギやセイタカアワダチソウなど大きな植物が目立つ。



タヌキの足跡



サギの足跡

次回10月15日(土) そぞろ歩き

ガイド用マップは「ちょうふ環境市民会議」制作。環境市民会議メンバーが仙川駅南の国分寺崖線の自然などを案内する予定。

(市報9/20号で参加者募集)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●10/16(日) 9:30～12:30
●11/20(日) 9:30～12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。奇数月は午後まで。参加希望者は野草園横に直接集合。

●10/8(土) 10:00～12:00
●11/12(土) 10:00～15:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/9(日) 9:30～12:00
●11/13(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/2(日) 9:30～12:00
●11/6(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

●9/25(日) 9:30～12:00
●10/23(日) 10:00～12:00
●11/27(日) 10:00～12:00
秋のイベント「リース作り」雨天中止

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス、ニワコヤ(仙川)、など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円
郵便振替 00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆